

Fuji Learning Information No. 11

2017年4月15日

旭川藤女子高等学校

藤の学び改革を通して、自ら考え判断し自分の目標に向けて計画を立て課題を解決して行くことができる学習者を育てたい、という目標を掲げてきました。そのために、70分授業、DEタイム、PDCシステム（PDS手帳）の3本柱を効果的に組み合わせることに腐心してきました。

今回は、“学び改革一期生”である現在の3rd stage（3年）特進コースについて取り上げてみたいと思います。ちなみに、“学び改革一期生”とは、中学3年の時に「藤の学び改革」について説明を聞いて入学してきた生徒のことです。その生徒たちが丸2年経ち、どのような変化を見せているのかを紹介します。

勝手に勉強する生徒

最近、このクラスのことを話題となると、「勝手に勉強するんですね」という表現が聞こえてくる。「なんと理想的なことだろう」と微笑んでしまいます。何かの事情で授業時間が自習になっても、また授業者が行くのが遅れたとしても、勝手に学習者は勉強しています。放課後は、特進コースの学習空間である「特進 Lab」で、勝手に勉強しています。インフルエンザで学級閉鎖になっても「学校で勉強していちゃいけないんですか?!」という投げかけが担任になされます。勉強合宿も生徒から「やりたい!」という声が出てきます。

これらを見ていると、学習者の本来もっている意識レベルや他の要因もあると思いますが、学び改革を通して「勝手に勉強する環境を作ってきた」成果とも言えるのではないかと思います。学習者が本来もっている“学びたい”という気持ちに火をつけた、という言い方がより良いのかもしれませんが、「自ら学ぶ力をつけた」ともいえるのではないかと思います。

その仕掛けは何なのか？

70分授業は、復習演習－藤ラーニング－課題演習という構造で成り立っています。その全体が、脳をアクティブにする仕掛けになっていますので、それが習慣化することで「勝手にやる学習者」になってゆくのです。学習の仕組みは、「課題提示」に始まる独自学習と学習者同士が学びを深める相互学習の効果的な組み合わせにより、個々の学習者が効率よく学びを深化させることが可能な仕組みになっています。

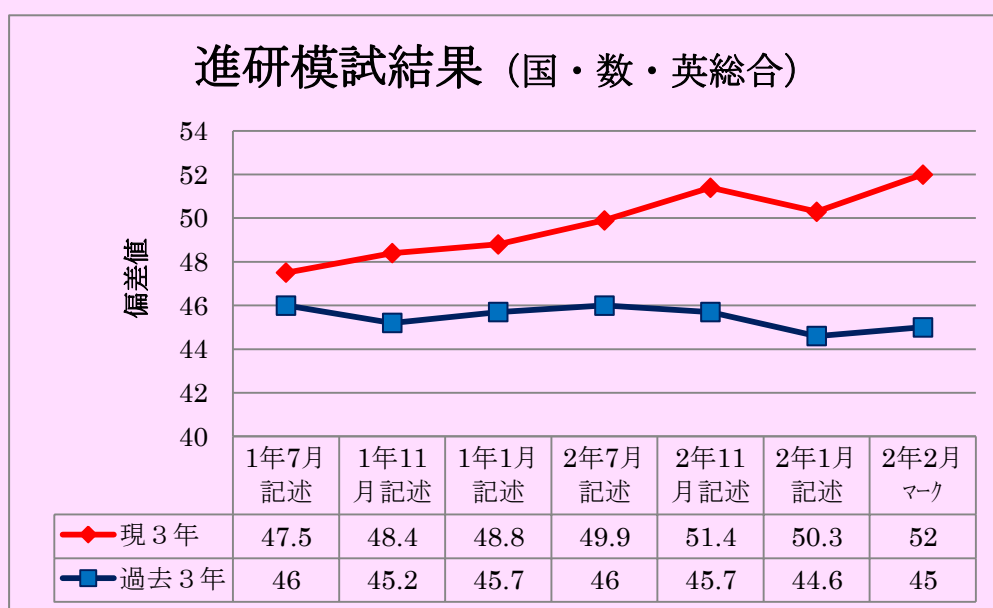
以前は、授業者が板書をして学習者はノートを写す。そんな単純作業が学習者の脳を眠らせていました。また、授業者は板書をして説明することに満足していました。今は、板書することはあっても、必要なきに黒板が使われるに過ぎません。黒板は半分がプロジェクター用のスクリーンを下せる形になっているので、効果的な使い方ができます。乱暴な言い方かもしれませんが「教えない」ことが浸透し「自分で学ぶ」ことが勉強だ、ということが授業者の側にも学習者の側にも意識され始めた結果だと受け止めることができます。

さらに、学習を中心とした学校生活をP D C Aサイクルで回せるようにしていこうと導入した「P D S手帳」をうまく活用し、計画的に目標をクリアして行くサイクルを歩み始めたことも一因とみています。学習だけではなく、学校活動のすべてをP D C Aで回すことが意識され浸透してきたことも大きいと思います。

着実な学力向上

それらの取組みの成果は、模試の結果にも現われ始めています。

これまでの本校の模試の結果は、残念ながら偏差値を伸ばすことが出来ない状況が続いていました。しかし、学び改革一期生以降、僅かずつですが上昇カーブを描き始めました。下の模試結果は、3rd特進コースとU Lコースの総合成績で、以前の結果と比較したグラフです。明らかにカーブの形が違うことがわかると思います。1年生7月の生徒の学力レベルはさほど変わっていませんが、2年生2月の偏差値は過去3年の偏差値に比べ7ポイントも上昇しています。



教科別の偏差値を見てみても、国語は1年生7月の47.3から2年生2月には49.9に上昇（同時期の過去3年比3ポイント上昇）、数学は同45.8から51.4へ（同時期過去3年比9ポイント上昇）、英語は同50.3から57.5へ（同時期過去3年比5ポイント上昇）と伸びています。

また、個人別にみても、顕著に伸びている生徒がいます。例えば、同58.5だった生徒が70.2まで高いレベルで伸びた例や、同55.5から60.3へ、同52.0から60.9へ、同46.6から61.7へ、同45.3から53.8へ、42.4から50.3など多くの生徒の例をあげることができます。本校の特進コースは、入学時に学力差があることがここからも見えますが、クラス全体が学びの雰囲気になっているので、全体の成績が底上げされています。

学び改革のコンセプトは「新しい授業を創ること」と「学力向上で進路実現を果たすこと」です。そこで目指したのは「自ら学ぶことができる生徒」です。別な表現をすると「勝手に勉強する生徒」ということになります。自ら学ぶことに目覚めた生徒は、学習のみならず、学校活動のすべてに前向きで、気持ちの良い対応ができます。

大きな授業改革を始めて丸3年が経過しました。学力面のみならず人間的な成長も含めた結果が出るまでもう一步のところまで来ています。

